

ファシリテーター・コーチ（教師の役割）

2021・12・21 重枝 一郎

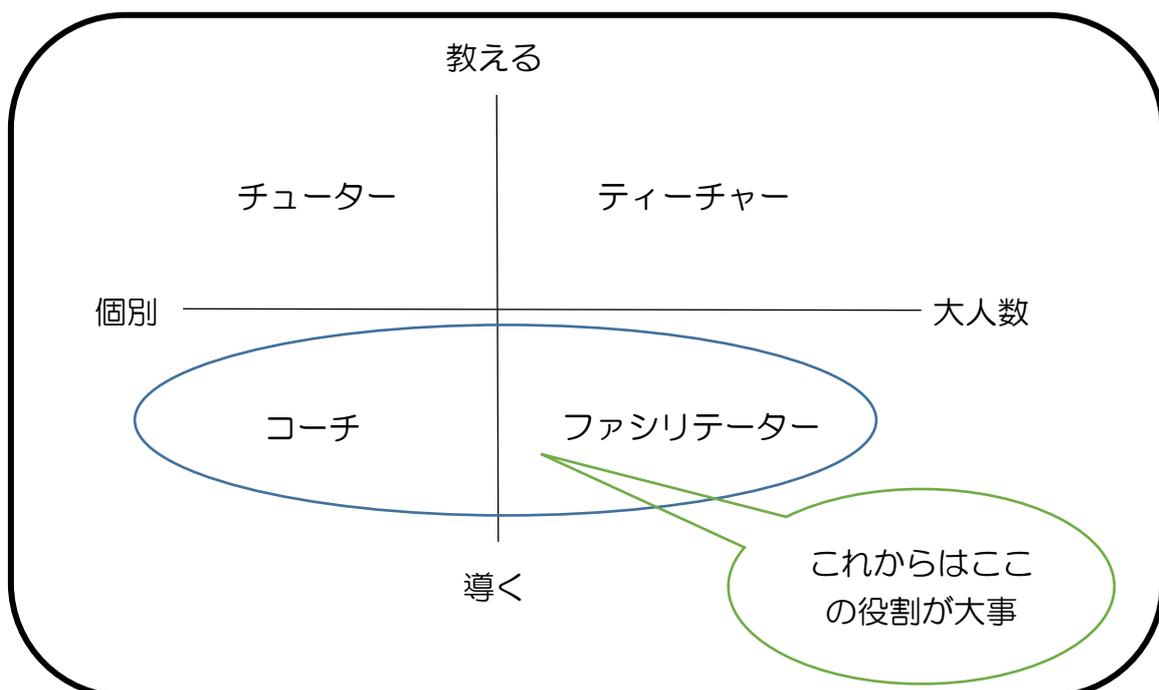
生徒に、自律的な学習者になってほしいという思いは、私たち教師の共通の思いである。そのためにはどういった学びがいいと考えているか。

これまで、知・技の獲得に時間と労力をかけ、それ自体に価値があったと考えられていた。しかし、今はその知・技を得るプロセスが劇的に容易になった。効率良く得た知・技を活用して、自分の関心があることに没頭し、知・技の使い方が正しかったのかを見極めながら、新たな価値をどう生かすかを試行錯誤する学びに転換されている。その試行錯誤の先に自律的な学びがある。そして、自律的な学習者の育成は、自律的な社会人の育成につながる。

これまで「習っていないからわからない」という生徒の声に対し、教師は教師の責任として「教えていなくてすみません」という意識をもっていた。そして生徒は「これはまだ習っていないから」と言っ、知っている知識でさえ使おうとしないマインドにもなっていた。考えてみると、それは「教えられる」ことが基本となっているためそうしたマインドになっていたと思う。

これからの私たち教師は、生徒に対し、自分で調べたり、自分に必要なことを見出したりする術を身につけさせていかななくてはならない。それは「習っていないからわからない」というマインドをなくす教育になる。その教育をする上で私たち教師にはどういった姿勢や意識が求められるのか。

教師の役割は、場面別に「ティーチャー」「チューター」「ファシリテーター」「コーチ」の4つがある。そしてこれからの社会・学校で自律的な社会人・学習者を育てるためには「ファシリテーター」「コーチ」の役割が重要になる。



つまり、個別でも大人数でも、相手の力を引き出しながら目標到達に導き、支援するという関わり方である。ところが私自身もそれがわかっていながら「教える」ことにアイデンティティーを求めていたりする。教え子から「先生のおかげで成長できました」と言われると教師冥利に尽きる気持ちになるからである。しかし、生徒が自律的な学習者になっているかどうかという視点は忘れないようにしなくてはならない。

生徒に学びを任せると、教師としては不安だという声も聞く。私も気持ちは同じである。だから「ファシリテーター」や「コーチ」としての役割を学ぶことが大切である（「はないち」のコーチたちはその実践者であるので参考になる）。生徒が様々な気づきを自ら得られるようになった瞬間は、先に書いた以上に教師冥利に尽きる瞬間になる。

しかし、笑い話のようであるが、「ファシリテーター」や「コーチ」の実践をした場合、教師は生徒を見守っているつもりであるのに、生徒は教師から“見捨てられた”と感じる場合がある。当然のことながら、声かけは大事である。

このことは、美術科の川島先生と話している中で、私たちのマインドは「ケア&サポート」が大切であるという話になった。昨年の、本校中学入試当日の保護者への最後の学校説明のプレゼンの中でもそのことをアピールしたそうである。そして「大切なひとり」というミッションスピリットワードにつなげていく。今年度の説明は“一郎&源次郎”で最後のお願いを熱くスピーチすることを山田け広報部主任と計画している。

また、自律的な学習者の育成に不可欠なのは、安心して失敗できるクラスづくりである。良好な人間関係があると、友だちの考えや行動を参考にできたり、友だちの目から見た自分に気づけたり、友だちと自分の行動・考え方・感情の違いの比較から新しい気づきを得ることができる。

すべては、ポジティブな学校文化をつくるために・・・

「私たちの仲がよければ、たいがいのことは大丈夫！！」

2学期もありがとうございました（2学期最終号）

本当にありがとうございました。よいお年を